

東田利町報

町の生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康な暮らし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心

No. 304 昭和55年7月1日発行 昭和42年7月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行



No. 304

7/1

《根小屋線—今年度で全線が改良済に》

去る昭和52年に着工した、大琴と大台を結ぶ延長5,867mの農免農道根小屋線改良工事は、その後順調に進み、今年度で全線改良済になる見込みです。

一方、舗装工事も昨年から実施され、今年度は、8,900万円でおおよそ3,700mを計画しています。これによって、全体の約6分の5にあたる4,900mが舗装済となる予定です。

山懷を縫い、標高300mの高台を走る同線からは、眺望よろしく、霊峰鳥海の雄姿も眺めることができ、さわやかな高原の気分に入ることができます。

夏の日、ご家族連れで是非一度行ってみて！

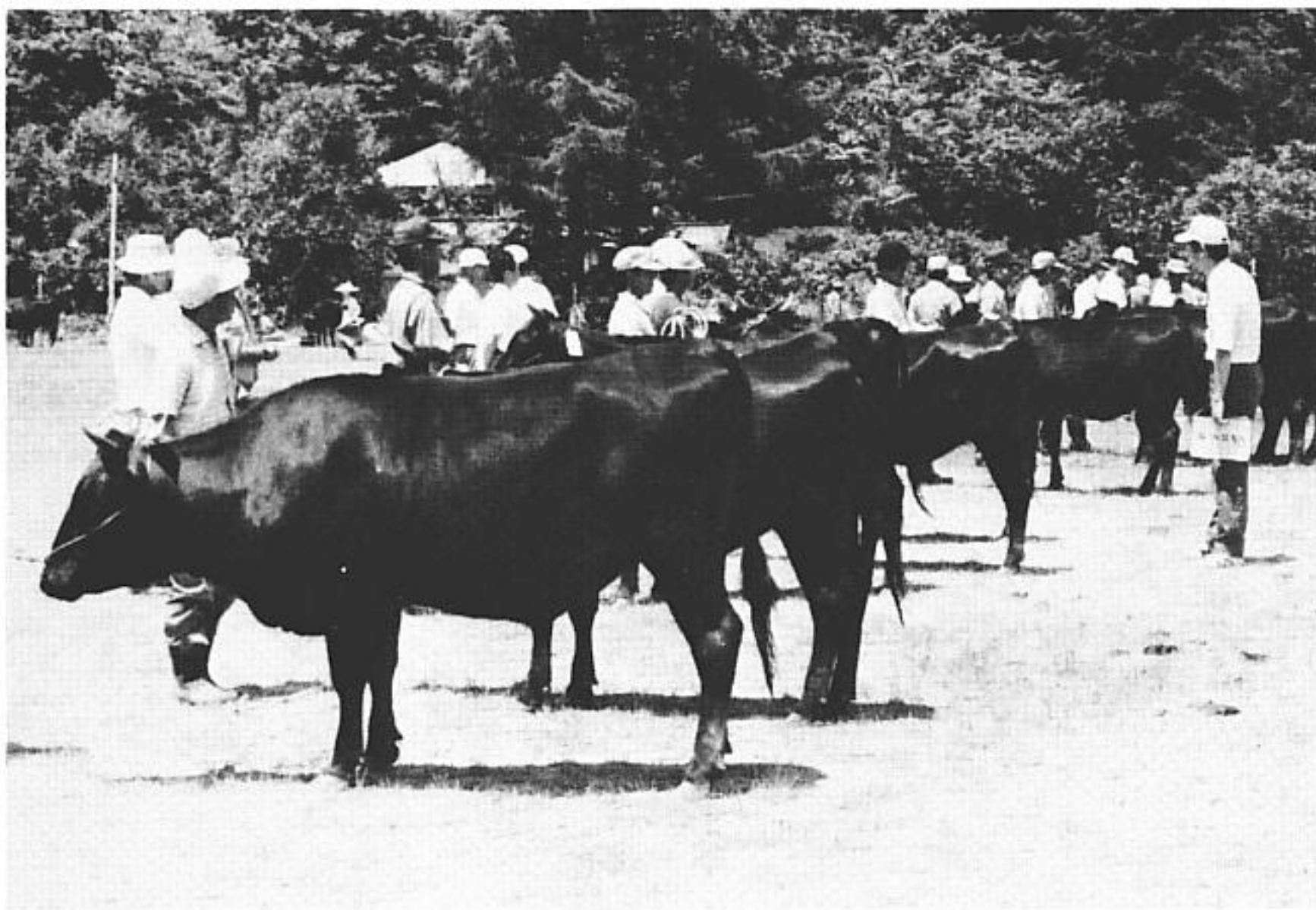
第二十五回町畜産共進会

自慢の牛九十八頭勢ぞろい

系統を理解して種牛選ぶ

第二十五回町畜産共進会は六月二十五日、乳肉牛合わせで九十八頭が出陳され、館合字上の台・旧玉米中グラントで盛大に開催されました。年一度の共進会は、丹精込

めて飼育した自慢の牛を一同に集め、資質、体型を競い合うとともに、お互いの飼養技術の向上、知識吸収の場として町の畜産振興に大きな役割を果たしています。



ズラリ並んだ黒ダイヤに、農家のかける期待は大きい

水田利用再編対策の実施などによって農家の畜産にかけられる期待は、一層大きなものとなつてきており、会場には、出陳者もとより、出陳しなかつた飼育農家も多数詰めかけ、一頭一頭を真剣な眼差しで見つめ、個体解説に聞き入っていました。

今回出陳された内訳をみると、和牛八十頭（育成牛十三頭、若牛二十四頭、成牛三十二頭、県外導入牛十一頭）、乳牛十八頭（ホルスタイン種十二頭、ジャージー種六頭）のいずれも劣らぬものばかりで、審査員も順位の決定に苦慮する場面も見られました。

審査員を代表した県中央家畜保健衛生所の鈴木豊次長は、「和牛については、資質が年々向上されて来ており、品位に富むものが多かったが、さく蹄がよく行われていないものや、肋張り、発育の不十分なものが見受けられた。

今後は、系統を充分に調査理解し、交配の組み立てを考へ、種雄牛の選択をすることによって市場価格の上位安定を計り、経営の安定的長期定

着を図ることが課題と思われる。

乳用牛は、資質発育とも概ね良好だが、肢蹄・肩・背・腰・乳器付着等にまだまだ改善の余地が感じられる。

特に、肢蹄の弱いものについては、育成時代に充分運動させることが丈夫な牛づくりの欠かせないものであり、今後の飼育管理に、さらにひと工夫してほしい。」と講評、今後尚一層の努力が期待されました。

上位入賞は次のとおり。

（○内は席次、所有者敬称略）
《黒毛和種・育成牛区》

▽一等賞

①みち号 工藤末次郎（蔵新田） ②かねよし一 畠山正博（館合新田）

▽二等賞

①ふくひめ二 佐々木善一郎（大琴） ②ふじひめ 佐藤定四郎（八日町）

《同・若牛区》

▽一等賞

①たいふじ号 畑山悦雄（館合新田） ②ふくはな五の一 阿部仁志（岩館）

▽二等賞

①よしきかえ一 畑山藤作（土場沢） ②きん号 武田敏雄（宿）

《同・成牛区》

▽一等賞

①よしひめ三 鈴木博昭（袖山） ②たかこ 小野一郎（館合新田）

▽二等賞

①はるの号 横山隆一（石高） ②第三ふじきよの四号 小野万三（館合新田）

《同・県外導入育成牛区》

▽一等賞

①きたひめ三 遠藤三代治（小倉）

▽二等賞

①ふきはな号 横山隆一（石高） ②えいじゅう号 小野耕助（宿）

《ホルスタイン種・育成牛区》

▽一等賞

①フラインランドカウントアタッシュ号 大庭喜右エ門（舟木）

▽二等賞

①アイバンホーデボジターマストロベルモント 伊東隆（蔵新田）

《同・成牛区》

▽一等賞

①フラインランドカウントホープ 大庭喜右エ門（舟木）

▽二等賞

①ヘンガードルドチーフキャロル 伊東庄一郎（蔵新田）

《ジャージー種》

▽一等賞

①ワイローロマンズウッド

アリー 畑山克司（島）

▽二等賞

①メイフィールドペンタゴン パンドラ 畑山克司（島）

《特別賞》

・若牛区 まつこ号 小野貞一（蔵新田） ・成牛区 あさき号 小松慶治（大琴）
・県外導入牛区 きたひめ三 号 遠藤三代治（小倉）

《団体賞》

◎肉用牛

・一位 館合和牛組合
・二位 大琴畜産改良組合

◎乳用牛

・一位 蔵地区
・二位 宿地区

◎母系系統牛群
・たけはな号、たけはな四号、たけはな五号、小松建一（山崎）
・フラインランドカウントウエイン、フラインランドカウントホープ、フラインランドカウントアタッシュ 大庭喜右エ門（舟木）

町議会議員選挙

投票日 7月 12日

隣り近所誘い合って投票所へ！

東由利町消防団役員一覧表

(55.6.1現在)

団長 佐藤 力 (宇戸坂)

副団長 石渡力造 (蔵新田)、梅津栄一 (大琴)

			分団長	副分団長	部長	班長	団員数
本部					高橋隆男 (下小路)		7
1	分団	1	小松正幸 (高戸屋)	高沢巳一郎 (黒 瀧)	渡辺清一 (時雨山)	斎藤良悦 (石 高)	28
		2				佐藤正志 (葎 沢)	
		3				小松正武 (高戸屋)	
2	1	1	遠藤 繁 (家の下)	荘野洋一 (下小路)	小松賢悦 (館合新田)	遠藤常雄 (家の下)	43
		2				小松義憲 (久 保)	
		3				高橋重四郎 (館合新田)	
	2	1			荘野高光 (五海保)	高橋悦矢 (久 保)	
		2				小松義嗣 (松 柴)	
3	1	1	佐藤盛一 (下 通)	佐藤 侑 (寺 田)	高橋義男 (寺 田)	小野弥一 (新 町)	21
		2				畠山俊雄 (寺 田)	
4	1	1	木島久悦 (蔵新田)	阿部幹男 (蔵)	大日向淳男 (蔵新田)	太田 久 (蔵)	43
		2				阿部隆一 (蔵新田)	
		3				阿部勝治 (横 渡)	
	2	1			遠藤熊男 (新 処)	工藤 実 (新 処)	
		2				工藤正悦 (中の沢)	
5	1	1	佐々木善一郎 (大 琴)	畠山節雄 (袖 山)	鈴木 博 (大 琴)	佐々木精喜 (大 琴)	43
		2				佐々木泊漢 (大 琴)	
		3				大庭信也 (舟 木)	
	2	1			小野清幸 (宿)	小野 勁 (袖 山)	
		2				小野邦一 (宿)	



佐藤団長



石渡副団長



梅津副団長

町消防団役員は、去る三月議会で、消防団員の定数が二百二十五人から百八十五人に改正されたのを機に、新体制の下で町の防災の任にあたるべきとして五月三十一日付で全員が辞任しました。

これにより、六月一日付で新役員が発令され、同月二日に役場二階会議室で任命辞令の交付式が行われました。

交付式では、さきに開催された幹部会で団長の推せんを受け、町長が再任した佐藤力団長(50歳、宇戸坂)から、副団長以下新役員に辞令が交付され、町消防団は、本部・五個分団百八十五名で新たなスタートをきりました。

町消防団は、道路網の整備や消防機械施設の整備充実が進められている状況にあつて、常備消防発足に伴ない昭和四十八年に改編された現体制を社会情勢に合った機構に再改編すべきでないかと、昨年来

町 消 防 団

機構改編

新体制でスタート

団長には佐藤氏を再任

設・機械の整備充実と合わせ

た形で、団員も四十名減の百八十五名となったわけだが、

日頃から訓練に励み、幹部を中心に全団員が一丸となり、町民の期待に応えるとともに、災害のない町づくりに頑張つてほしい」と訓辞、辞令交付式を終えました。

畠山副団長は勇退 新副団長に梅津氏

この役員改選により、昭和五十二年以来、副団長として活躍してこられました畠山淳悦氏(52歳、袖山)は勇退され、代つて前第五分団長の梅津栄一氏(44歳、大琴)がその任に着きました。

から検討を重ねてきていたものです。

町では今後、機動力と水利の整備充実、防災体制の強化に努め、町民が安心して住める町づくりを進めていくことにしています。

役員の任期は、昭和五十九年五月三十一日までの四年間です。

町長日記

県では、福祉医療の見直しの方針を五十五年度予算編成を前に発表しました。

満七十歳以上の自己負担(三割)を、国がそのうち六分の四、県と町が六分の一づつを負担している制度です。しかし、これには所得制限というのがあります。

- 1、乳幼児医療
- 2、老人医療
- 3、心身障害者医療

所得の多い人には国の制度ではこの三割は自己負担ということになっています。しかし、その分も秋田県では、県と市町村が半分づつを出して、全部の満七十歳以上の老人の医療費をただにしています。

- (一) 乳幼児医療は、
 - ・〇歳児(まだ満一歳にならない児)
 - ・一歳児(まだ満二歳にならない児)

今度の県の案では、所得の多い人には県と市町村では負担をしないという考え方です。

は、入院・外来ともに健康保険で支払われたあとの自己負担(三割)を、県と町で半分づつ支払っておるものです。

(三) そのかわりと申しましたようか、今度新たに、母子家庭と父子家庭の満十八歳未満の人には、所得制限をつけますが医療費はただにしましょうというのです。

また、二歳児(満三歳にならない児)は、入院の自己負担分(三割)を県と町で支払っています。

(四) 心身障害者の医療は、これまで通りです。

今度改正しようという案は、〇歳児、一歳児の外来分は小額が多いので、その分は自分で支払ってもらいたい、というのです。但し、所得の低い人は、これまで通りに県と町で支払いますよというのです。

私は、この県の福祉医療審議会の委員(十六名)の一人として、去る六月二十五日から審議に加わるようになりました。

(二) 老人医療は

衆院投票率(86.88%)は全県8位

参院 全国区 もったいない無効票 736

国政史上初の同日選挙となった第三十六回衆議院選挙と第十二回参議院選挙は、六月二十二日に投票が行われ、翌日開票の結果、衆議院本県二区では、根本竜太郎氏、村岡兼造氏、笹山たつお氏、川俣健二郎氏、参議院秋田地方区では佐々木満氏がそれぞれ当選しました。

今回の選挙は、予定されていた参議院選に内閣不信任案可決——衆院解散というハプニングが重なって史上初のダブル選挙となり、自民党が単独政権を守りきるか、それと



開票立合人の見守る中、一票一票を慎重かつ迅速に仕分け

方々を説明するなどの、棄権防止と無効投票の増加防止に努めました。

その結果、本町の衆院選投票率は、男子が八七・〇一、女子が八六・七五、全体では県平均の八〇・四七を約六割上回る八六・八八で、由利

昭和55年6月22日執行

衆議院議員総選挙投票結果表

投票区	当日の有権者数	投票者数	棄権者数	投票率	内訳	
					男	女
第1(黒瀬地区)	348	297	51	85.34%	83.62%	87.13%
第2(住吉々)	352	304	48	86.36	88.69	84.29
第3(袖山々)	176	154	22	87.50	89.29	85.87
第4(館合々)	962	834	128	86.69	87.96	85.54
第5(松柴々)	72	67	5	93.06	93.54	92.68
第6(老方々)	971	821	150	84.55	84.95	84.19
第7(祝沢々)	66	61	5	92.42	97.22	86.67
第8(高村々)	34	31	3	91.18	89.47	93.33
第9(法内々)	347	301	46	86.74	83.72	89.71
第10(蔵々)	635	570	65	89.76	89.22	90.27
第11(大谷地・大台)	90	80	10	88.89	91.30	86.36
第12(宿地区)	667	577	90	86.51	85.54	87.43
第13(杉森・沼)	96	87	9	90.63	91.49	89.80
計	4,816	4,184	632	86.88	87.01	86.75
二区計	380,261	314,586	65,675	82.73	83.57	81.97
全県計	918,042	738,780	179,262	80.47	80.78	80.19

《衆議院・秋田県二区》

各候補者別の得票数は次のとおりです。

(一) 内は、本町得票数。

田島 正止 諸派新

一、一六三票

(一四票)

長田裕二(自) (一一三票)

(按分省略、一〇〇票以上)

当選 根本竜太郎 自民前	六〇、四二五票	当選 佐々木満 自民現	三四二、一七六票
当選 村岡 兼造 自民前	六〇、〇七六票	次点 沢田 政治 社会元	二七三、五〇六票
当選 笹山たつお 自民新	五七、四一六票	伊藤 昭二 共産新	六五、三七六票
当選 川俣健二郎 社会前	五六、五一八票	岡部三郎(自) (六六〇票)	
次点 ほそや昭雄 社会前	五五、二〇九票	藤原房雄(公) (三五六票)	
長沼 宗二 共産新	一三、一一九票	井上 孝(自) (二九五票)	
目黒けさ次郎(社) (二〇三票)		丸茂重貞(自) (二六六票)	
岡田 広(自) (一四二票)		いたがき正(自) (一四二票)	
田島 正止 諸派新	一、一六三票	長田裕二(自) (一一三票)	
一、一六三票		(按分省略、一〇〇票以上)	

一滴

「土用」というと、まず連想するのは、夏の暑さ。そして、丑(うし)の日のうなぎ。

ところが実際には、「土用」は春夏秋冬にそれぞれ一回、年に四回あります。

それが、いつの間にか夏の土用ばかりが知られるようになり、衣類を虫干しする土用干しとか、土用波とかいうのも、すべて夏の土用のことになってしまいました。

今年の夏の丑の日は、七月二十七日の日曜日です。この日に、夏やせ防止にと、うなぎのかば焼きを食べる習慣があるのは、ご存じの通りです。

土用の丑の日は、うなぎばかりでなく、地方によつては、「う」のつくもの、たとえば、うめぼし、うどん、うし肉、うりなどを食べると暑氣あたりを防げるといわれているようです。

いずれにしても、この時期はもともと暑さがこたえるときですから、スタミナのつく食事を十分にとつて夏を乗り切る体力をつけましょう。



▲ 最年少3歳の一ちゃんも元気に頂上をめざす



下山…ぶな林の
小路を伝う一行
の表情もはれや
か

◀ まわれ風車…疲れもみせず
元気一杯



▲ 汗を流して登りつめた頂上でのおにぎりの味はまたかくべつ

めざすはあの頂、サア行くぞ!



第2回 町民登山の会

目前にありながら登る機会
の少ない八塩山(標高七二三
m)に登り、自然に親しみな
がら体力づくりにつとめよう
と六月八日、町公民館主
催の「第二回・町民登山の会」
が行われました。

当日は、明け方に雨が降り
ましたが、八時前には晴れ、
初夏の風が胸に心地よい絶好
の登山日和となりました。

午前九時三十分、集合地点
の八塩ダム入口には、三歳の
小野一ちゃん(上里)を最年
少に、最年長六十二歳の小松
周一さん(上通)まで男女合
わせて二十七名が集い、小野
町公民館主事からコース、日
程について説明を受けたあと
元気に出発しました。

青く光るダムの水面を右に

見ながら深山へぬけ、登り口
のヨシヤチ、不動滝へ。

ここから、急傾斜の尾根伝
いに頂上の八塩神社をめざす。
「フウフウ」「ハアハア」
言い、幾度となく休みながら
およそ二時間半、全員が元気
に神社に到着して参拝。

このあと一行は、周囲の木
立ちが伐採、整枝され、町内
はもちろん、遠く湯沢、横手、
大曲までも眺望のきく神社前
広場に、汗だくになりながら
背負ってきた弁当をひろげ、
心ゆくまで自然の味をかみし
めました。

また腹ごしらえをすませた
子供たちは、神社の回りでの
宝さがしや、蔵の小野行子さ
んと上里の小野市朗さんが朴
の木の小枝で作ってくれた風
車を持って元気にかけ回るな
ど、思い出に残る楽しいひと
ときをすごしました。

三歳の坊やも元気に完登

午後一時半、神社をあとに
下山開始。

帰路は、ぶなの原生林の小
路を伝い、矢島町との境界線
の尾根伝いに下り、山ふとこ
ろの杉林を縫って八塩林道へ
出、約二時間で出発地点のダ
ム入口に到着しました。

関係者以外はほとんどが初
めての八塩登山に、参加者は、
「…急な登りに、なぜこんな
苦勞して山に登らなければな

らないのか、来なければよか
った、失敗した。」と思っただ
汗を流して登りつめた頂上での
の弁当の味、眺望は、そうし
た思いを打ち消してくれた。
「どういふふうに表示したら
いいかわからないが、とにかく
くスッキリした気分だ。今は
参加して良かったと思ってい
る。是非また来たい…」と、
口をそろえて話していました。

育てよう、互譲、の気風

監督会議でお手本

“紛糾の心配” 杞憂に

自己の利益のみにとらわれず、他人の立場も考えて互いによりよい解決の方途を見出す、いわゆる“互譲”の精神が薄れつつあるという一般論を否定するかのようないお手本が示されました。今号では、この耳慣れない互譲についてみんなで考えてみることにしたいと思います。

めまぐるしく多様化した現代社会の中で稀有なことになってしまった、あるいはこの“互譲”のお手本は六月十七日に開

催された第九回町民球技大会の監督会議で披露されました。同日までの出場申込み数は種目によっては前年度を上まわるものもあり、多数の出場を期待する一方で、日程の消化ができるか否かと心配し続けなければならぬ主催側にとっては、出場数の増えることが痛し痒しの状況でもありました。

出場申込みの種目が出たため調整を要する事態が生じてしまいました。全町民に社会体育の振興を説き、積極参加を呼びかけて来た主催側の立場上、大会出場を目標に毎晩練習を続けて来ているというチームの監督に対し、いかに日程消化上の理由からとはいえ出場見合わせの勧告を行うことは忍び難いことでもあります。しかし、何としても円満な

これに基づいて、制限枠を超えて申込んだ地区のチーム同志で協議を行い、出場数を枠内に抑えることになりました。大会出場をめざして練習しているんだから、何としても出場したいとして論じ合っていた監督たちですから、調整が付くまで紛糾することが必至と見られ、主催側として心配を大きくしたところでしたが結果的には杞憂に終り、ほんの数分の協議で調整がつけました。

この意外とも見られるスピーディーな調整の底流には、日頃スポーツを通じて培われた“互譲”の精神が大きく作用していた点を見逃すわけには行きません。

私たちの周囲を見渡すと、この互譲の精神を欠いたため誤解や混乱を招いている事例がたくさん見られます。多様化した現代社会の中で薄れつつあるこの“互譲”の精神に、私たちの一人一人があらためて目を向け、こうした気風づくりにつとめましょう。



顔見知りの出演者に盛大な拍手

催、各自治会単位の歌や踊りの競演のほか、町民謡同好会員によるゲスト出演なども行われ、楽しい親睦の一夜を過ごしました。

体育館を埋め尽した約五百人の観衆は、出演者がいづれも身近かな顔見知りの人たちだけに、盛大な拍手を送るとともに次々と祝儀が寄せられるなど、まさに地区民一体の早苗ぶり大会として大成功をおさめました。

また、隣接町村の実態を見つめ交流を深め合う独自の移動研修を二台の車を借り上げて実施したほか、分館報の第十九号を六月下旬に発行するなど、まさにエンジンフル回転

転の状況にあります。グラウンド整備で“大運動会”成功

法内分館

小学校の統合後、管理面が行き届かず雑草が繁茂するなどとしてすっかり荒廃してしまっていた旧法内小グラウンドを、分館が音頭取りとなって各自治会長に働きかけ、地区民総出で立派なもののグラウンドに甦えさせました。

これを契機に、六月二十二日には五年ぶりに地区民の親睦を深め合うことをねらいにした大運動会を開催、バラエティーに富んだ種目がふんだんに取り入れられ、天候にめぐまれたこともあってグラウンドには終日笑いと歓声が上がり、大成功のうちに終了しました。

同分館では引き続き今月も地区民の親睦と連帯をねらいとした巡回映写会を計画、目下フィルム選定を進めているといわれ、早くも期待が寄せられています。

ソフト大会

……玉米分館

懇談会開催

……袖山分館

このほか玉米分館では六月二十二日にソフトボール大会を実施、袖山分館では梅津公民館長や小松県派遣主事を交えて懇談会を開催するなど、他分館のエンジンも徐々に回転数を上げつつあります。



盛会だった蔵地区 早苗ぶり大会

特徴ある分館事業

エンジン日毎快調に

昭和五十五年度もすでに四半年度経過、公民館各分館の特徴ある事業のエンジンも日増しに快調となり、中には本館事業をしのぐ勢いでフル回転しているところも見られます。これまで寄せられ

継続的な分館報の発行など地区民一体となって独創的な事業に取り組んでいる蔵分館では、田植えが一段落した六月十一日、蔵小学校を会場に第五回目の早苗ぶり大会を開

……蔵分館

食品衛生の向上で健康増進

優良施設などを表彰



おかげで安心して食べられます……と祝辞を述べる小松町長

第二十回本荘市由利郡食品衛生大会が六月十五日、町開発センターを会場に、市郡内の食品業者、来賓、一般住民合せて約二百名が出席して行われました。

これは、食品業者や地域住民の食品衛生に対する自覚と関心を高め、衛生知識の向上と普及を図りながら、食品業者の自主管理体制を確立し、地域住民の健康増進を期する——と、日本食品衛生協会秋田県支部本荘支所が、毎年開いているものです。

大会では、斎藤大会会長の挨拶、表彰が行われました。このあと、アトラクションとして、五星会一行と町民謡同好会による唄と踊り、さらに、空くじなしの福引き抽せん会を行ない、盛会のうちに大会の幕を閉じました。

午後からは、秋田県衛生科学研究所・栄養科長の菊地亮也氏による「健康と生活」と題する講演、東由利中三年佐藤達也君、同二年佐藤幸子さん、同佐藤渉君の優秀作文の発表、表彰が行われました。

本町関係で表彰を受けた方として、五里会一行と町民謡同好会による唄と踊り、さらに、空くじなしの福引き抽せん会を行ない、盛会のうちに大会の幕を閉じました。

本町関係で表彰を受けた方として、五里会一行と町民謡同好会による唄と踊り、さらに、空くじなしの福引き抽せん会を行ない、盛会のうちに大会の幕を閉じました。

長沢町議会議長が会長に

県町村議会議長会で役員改選

秋田県町村議会議長会の臨



長沢議長

時総会が、去る六月四日秋田市の県自治会館で開かれ、任期満了に伴ない役員選挙の結果、本町の長沢毅議長が新会長に選任されました。

長沢議長は、昭和三十一年七月に下郷村議会議員に当選

して以来現在に至るまで、二十五年の長い間議会議員の職にあり、この間、昭和四十三年八月から村(町)議会議長、五十年五月から由利郡町村議会議長会会長、五十一年六月から五十二年六月までは県町村議会議長会副会長として、地方自治の発展に尽力されてきています。

今年七月は、法務省主唱による「社会を明るくする運動」強調月間です。

この運動は、すべての国民がそれぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動で、本年度三十回を数えます。

東由利の地名 ① 高瀬川 (石沢川)

東由利を東西に縦断する高瀬川は、石沢川と二つの名で呼ばれているが、どこまでが高瀬川で、どこから石沢川かは判然としない。瀬(ながれ)が急で水音が、この名の川はあちこちにある。

東由利を東西に縦断する高瀬川は、石沢川と二つの名で呼ばれているが、どこまでが高瀬川で、どこから石沢川かは判然としない。瀬(ながれ)が急で水音が、この名の川はあちこちにある。

東由利を東西に縦断する高瀬川は、石沢川と二つの名で呼ばれているが、どこまでが高瀬川で、どこから石沢川かは判然としない。瀬(ながれ)が急で水音が、この名の川はあちこちにある。

お知らせ

防ごう非行助けよう立ち直り

社会を明るくする運動

毎年七月は、法務省主唱による「社会を明るくする運動」強調月間です。

この運動は、すべての国民がそれぞれの立場で力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動で、本年度三十回を数えます。

自力で進学を

7月23日に説明会

毎日新聞社では、働きながら首都圏の大学、各種学校へ進学を志す学生のために奨学生制度を設けており、現在

毎日新聞社では、働きながら首都圏の大学、各種学校へ進学を志す学生のために奨学生制度を設けており、現在



町の概要

人口総数	6,372人
うち男	3,128人
うち女	3,244人
世帯数	1,461戸
面積	148.51km ²
	(55.5.31)

事故防止に顕著な活動

町交通安全母の会に感謝状

町交通安全母の会連絡協議会(佐藤良子会長、会員七十二名)は、去る五月二十三日、県庁で行われた秋田県交通安全母の会連合会結成五周年記念大会の席上、交通事故防止のためとくに顕著な活動を続けていくとして、県連合会長から感謝状が贈られました。

同連絡協議会は、町内の二保育園、六小学校、中学校の各交通安全母の会で構成され、



感謝状を手に「母親の力を結集し、事故のない明るい地域づくりを…」と話す佐藤会長

「事故のない、明るい社会を母の手で」をスローガンに、交通安全パレードや街頭指導、交通安全カシ製作等、事故防止のために日頃、活発な活動が続けています。

感謝状を手にした佐藤会長は、「きめ細かな愛情とねばり強い母親の力を結集し、とくに子どもと老人の事故防止と飲酒運転の絶滅をはかり、みんなが明るく幸せに暮らせ



人前で何かをするのをいやがったり、大勢の中に入ると、自分らしさをいせなくなってしまう子供がいます。

このような子供は、他人の目を気にしているながらも相手の気持ちをくみとれず、そのために相手から理解してもらえないばかりか、自分も相手を理解できないままです。ひっこみ思案になってしまいう傾向があるようです。

ひっこみ思案

根気よく「意欲」を引き出そう

ですから、「新しい経験」に対して消極的であるということは「心の成長」ばかりでなく、「社会性」をはぐくむ上でも、マイナスに作用することがありますから、気をつけたいものです。

ひっこみ思案は、本人の性格であつたり、家庭環境が原因の子供は、消極的になりがちです。

しかし、子供は友だちとの交流を通して、あるいは大人の言動などを自分の行為に取り入れることによって、人とのつき合いや社会習慣・規則などを身につけていきます。

困ったり、いろいろ考えられますが、過保護による甘やかし、子供に理想を追いつけることからくる過干渉の弊害など、しつけのあり方についても改めて考えてみたいものです。

子供のいやがることを無理強いしたりするのでなく、目先のことにとらわれず、根気よく人との触れ合いの大切さを教え、集団生活や共同の遊びに心からとけ込む意欲を引き出すようにしたいものです。

子供の長所を伸ばしてあげる配慮が大切ではないでしょうか。

社福だより

香典返しとして、故大沼ヒサエさんのご遺族(蔵新田、大沼武旦さん)より二十万円、故近江ハナさんのご遺族(奥ケ沢、近江豊三さん)より三

善意

△東由利中へ雑巾50枚
佐々木ナツノさん(大琴)から



5月21日～6月20日

誕生

おめでとう

鈴木美津美 沼 靖 長女
畠山奈美子 雷 金悦 長女
高橋達也 横渡 隆治 長男
大庭恵美 舟木 喜一郎 長女



結婚

おしあわせに

高橋 善男 久保
長谷山 美和子 舟木

・お悔み申し上げます

佐藤 佐一 湯出野 81歳
大沼ヒサエ 蔵新田 68歳
佐藤ノブヨ 田代 78歳
遠藤 慶一 桂台 8歳

阿部 弥松 小倉
阿部 柳子 横渡
斎藤 春雄 羽後町
高橋 弘子 松柴

青少年を非行から守る強調月間

7月1日～7月31日

重点項目

1. 万引の防止
2. 飲酒・喫煙禁止・シンナー等の乱用防止
3. 性非行の防止
4. 家出や自殺の防止
5. 暴走グループの絶滅

“これくらい
それが心の
赤信号”